

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

やすらぎホーム鴨方

日付 平成 20年 5月 30日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

昨年にこのホームを訪問した時は、1階には身体的にも精神的にも症状の進んでいる利用者が多く、リハビリに励んでいた。2階には開所したばかりで6人の利用者が居て、まだ元気な方が多かった。そして今回訪問した第一印象は、利用者や職員と共にこのホームでの生活が定着したなあと感じた。平成18年5月に開設し、丸二年経過したホームの姿だった。

最初の雰囲気はそのまま引き継がれ、1階と2階のユニットの様子は随分違うようだ。各々のユニットの管理者から聞くと、1階は「自分を分かっている人が半分、普通の生活をしてもらいたい。出来るだけ自分で出来ることをしてもらいたい、自分のしたいことをしてもらえるようにしている。喧嘩をさせず、ゆっくり過ごしてもらおう。何をしてもらいたいと言える人はいないが、怪我のない、事故のない人であって欲しい」ということで、身体的に衰えそうになっている機能を維持しようと、毎日リハビリを一生懸命頑張っている。歩けるようになるために、抱えるように介助して歩行を続けたり、手摺を伝って歩く。杖や歩行器を使わず歩く訓練が続く。立位保持のため歩み100回を続ける。座位保持のリハビリもする。このように身体の状態を維持する努力を利用者と職員共に惜しまない。2階は「人間らしく生きている人が多い。何が出来るか、色々させてみている。そして何をしたいのか気付きを大切にしている。身体的に無理なことをせず、怪我のないよう気を付けていく。精神的興奮することを予知して、職員は気を付けて行動をしている。利用者の仲の良い人同士で楽しく生活してもらおう」ということの実際の生活を見てみると、利用者の一人ひとりが自分の好きな作品を作ったり、家事の手伝いをしながら、自分の生活を楽しんでいた。

このように、2つのユニットで利用者の状態が違う事により生活そのものが違うけれど、共通して言えることは、そこに認知症になってしまった人々が住んでいることである。両ユニットの現在の様子を見れば、認知症の症状の違いはあるにしても、2階の人からすると、やがて同じ道を辿らねばならないかも知れない。2つの事例の中に、18人の一人ひとりの状態を分類してみれば、原因の病気やその人の経歴によって差はあるが、認知症の症例をしっかりと見つめて、認知症ケアのあり方をしっかり考えてみる良いサンプルがある筈である。認知症ケアの実践をきちんと整理しておく、良いデータになるかも知れない。興味を感じた。

特に改善の余地があると思われる点

人間の基本的な行動に対するケアを中心に利用者の生活ができるよう支援しているが、このケアを介護計画の中に組み込んで、職員の日常しているケアの効果を明確にして欲しい。そのため、介護計画の作成プロセスの効率化が出来るようなシステムも考えていってほしい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念に掲げた言葉を利用者に対して、実現していこうとする職員の内こもった行動ができているので、改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：「これからの人生をゆくりと、自由に歩んで欲しい」「自分らしく、ゆたかな生活を」という運営理念は続いている。開設して2年経過し、管理者や職員は利用者としてしっかり関わり、その人に何ができるのか、何がしたいのか、その人に合った楽しみを見つけようとしている。家族から習字が好きだったからさせてあげてと言われたけれど、本人は習字は嫌だ。塗り絵がしたいというケースもあった。利用者の今に向き合い、その人が好きな事をしながら、普通の人として普通の生活をしてもらいたいと考えている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：現在の建物及び設備について改善する事はない。</p> <p>2、全体的に見て…：すぐ裏には桃畑が広がる閑静な住宅地の一角にホームがある。四季折々の自然を楽しみながら、周辺をぐるりと散歩するのも気持ちが良い。リビングルームには食卓の他に、テレビを囲んだ長ソファ、一段高い畳の間がある。食卓は作業をする人、テレビを見ながらあれこれお喋りをする人、畳の間で洗濯物を畳む人等利用者は思い思いにお気に入りの場所で寛いでいる。他のユニットでは、リビングルームで歩く訓練、立つ訓練などのリハビリに励む人もいる。又、足浴をして身体を温めてのリハビリもする。建物のハード面と利用者が行動するソフト面の両方が融合して、利用者本位への拘りが、落ち着いた生活ができる環境を実現していた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：介護計画の作成や職員間での共有をして、利用者のケアに生かしていく点で改良していかなければならないと考えている。その他の点においても改良の積み重ねをしていこうと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：「大規模施設にいた人を面会に行き、ずっと下を向いて黙っていた人が、ホームに来てよく喋り出した」と家族が驚いていた。ホームでは眠剤等の薬をやめて手厚いケアを続けた結果、人間味を増し表情も豊かになった。薬で足跡がふらついてきた人がしっかり歩けるようになった。在宅で夜間徘徊していた人が、職員がこまめな働きかけをして、もっと活動するよう促した結果、ホームの仲間と喋り、職員の手伝いをするようになった。このような事例のように人間としての機能を失いかけた人を、ホームでは職員のケアによって「人間回復」を実現している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：職員の安定は、人数面と資質の面で大切である。改善というよりは確保であろう。又、地域との連携は、これから必要なこととして準備していく必要がある。</p> <p>2、全体的に見て…：2年を経過した今日の状態は、1階と2階のユニットの利用者の状態に差があり、1階は不自由さが目立ち、2階は楽しさが表れている。このような状況の中でも、職員の努力によってホームのケア及びサービス提供の質が一步一步進んでいることは認められる。代表者と管理者・職員が思いを一つにして頑張っている結果だろう。家族もよく訪問してくれ、協力してくれるそうだ。地域との連携も昨年から一步一步と進展があって、運営推進会議も2回開催という目途がついた。これから、このホームの基盤をしっかり固めていく時期にあるだろう。</p>		